

桜生工

Vol.49

生産工学部

2019 日本大学生産工学部校友会誌

CONTENTS

ごあいさつ

生産工学部校友会長 高野 和雄	2
生産工学部学部長 落合 実	3
日本大学創立130周年	4
南房総市台風災害でのボランティア活動	5
令和元年度 生産工学部校友会 代議員総会	7
令和元年度 生産工学部校友会 代議員総会 懇親会	8
第12回 風力発電コンペ	9
2020年度 キャンパスガイド表紙デザインコンペ	9
工科系校友会 連絡会	10
第31回 母校を訪ねる会・桜泉祭	10
OB紹介	
坂本 光弘 機械工学科新部会長	11
朝本 紘充 応用分子化学科卒業	11
学科ニュース	12

高野 和雄 生産工学部校友会会長



日本大学生産工学部
校友会 会長

高野 和雄

校友の皆様におかれましては、益々ご清栄、そして、ご鞭撻の趣、心よりお慶び申し上げます。また、日頃より校友会活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝しております。

今年は新しい元号「令和」がスタートした記念すべき年になりました。

元号が変わった5月1日は何故か新年を迎えたような晴れやかな気持ちになったのを覚えています。新元号の「令和」には穏やかで平和な願いが込められているそうです。

さて、今年、日本大学は創立130周年を迎えました。創立記念日の10月4日(金)に帝国ホテル東京で記念式典が厳かに、祝賀会は盛大に行われました。午前11時から行われた記念式典では石井建常務理事(創立130周年記念企画等検討委員会委員長、生産工学部校友会相談役)による開会の辞の後、田中英壽理事長の式辞、麻生太郎副総理・財務相・金融担当相をはじめとする来賓の方々に祝辞がありました。この式典には約820人が参加しました。記念式典の後、場所は「孔雀の間」に移し、午後0時30分から祝賀会が行われました。祝賀会は津軽三味線と尺八による華やかなオープニングで始まり、その後、大塚吉兵衛学長による日本大学の教育理念の説明、各分野で活躍するOBOGの挨拶などもあり、終始和やかな雰囲気で行われました。

これから卒業、修了される皆様は118万人を超える日本大学校友の仲間になります。社会に出て、改めて学部を超えた日本大学のパワーに驚かされると思います。校友は力強い仲間です。

また、今年は大きな台風が日本を何度も直撃しました。9月後半から毎週のように週末に台風が日本を直撃しました。皆さんの家族、お知り合いは大丈夫でしたでしょうか。9月末に発生した台風15号は千葉県を直撃しました。特に南房総市では家屋の屋根が壊れたり、建物が崩壊したりと甚大な被害をもたらしました。

生産工学部がある千葉県での被害ですし、校友会として何か出来ないかと、電気電子工学科部会の有志が現役学生と一緒にボランティア活動をしました。学生たちは土嚢作りやがれきの撤去を行いました。また、調査により現地では各地に集められたがれきを撤去するための重機等が不足していることがわかりましたので、生産工学部校友会のOBが重機を手配したり、仕事の合間を見て重機を用いたがれきの撤去や運搬を行いました。この様子はNHKニュースでも取り上げられました。ここでも、校友のパワーを感じた次第です。詳細については、本号の特集記事をご覧ください。

昨年の桜生工では津田沼航空研究会の鳥人間コンテスト(滑空部門)二連覇をご報告させて頂きました。今年の大会は応用分子化学科3年生女子学生がパイロットを務めました。残念ながら三連覇とはいきませんでしたが、昨年出した学生記録は破られませんでした。今後の後輩たちの挑戦を注目すると同時に今までと変わらぬ支援を続けていきたいと思っております。皆様もどうぞ後輩たちの活躍を見守って下さい。

昨年の桜生工にも書かせて頂きましたが、校友会はサークル活動への支援、奨学金の給付、風力発電コンペやキャンパスガイド表紙コンテストの審査と補助、新入生や優秀卒業生への記念品贈呈等、数多くの支援を行っております。各学科へは活動費の支援も行っており、在学生の学会発表の補助などに有効に使われております。このような活動はすべて校友会費によるものです。現在、その多くを準会員である在学生からの校友会費で賄っております。残念ながら、卒業生である正会員による校友会費はそれほど多くないのが現状です。ぜひ、正会員になられ、後輩たちをご支援いただければと思います。正会員には日本大学校友会会報誌「桜縁」の送付の他、正会員ならではの日本大学病院の特典なども有ります。

次年度以降も母校の後輩たちのために、校友会として何が出来るかを常に考えていきたいと思っております。

今後も、校友会活動を通じて母校の発展に尽力する所存でありますので、何卒、今までと変わらぬご支援、ご協力の程、心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、校友の皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

落合 実 生産工学部長



日本大学生産工学部長
生産工学部校友会名誉会長

落合 実

校友の皆様におかれましてはますますご健勝でご活躍のことと、心よりお慶び申し上げます。

生産工学部は1952年工学部(現理工学部)工業経営学科を前身とし、1957年に習志野市泉町に校舎を移転して、1966年に生産工学部に改称され、本年度が創設67年目となります。学年定員は創設時60名から段階的に増員し、現在は1540名となっています。現在、学部9学科24コース、大学院7専攻を有し、学部学生約6,200名、大学院前期課程約250名、後期課程34名が在籍し、約7万人の卒業・修了生を輩出するまでに発展しています。

このような生産工学部の発展は校友(卒業生)の皆さんの社会での活躍が高く評価されていることによるものです。そして、校友会からの直接的なご支援とご協力が更なる発展に繋がっております。感謝とお礼を申し上げます。

そこで、校友会からのご支援の一部を紹介いたします。まず「生産工学部校友会奨学金」です。これは数十年前に莫大な基金を賜り、その利息を経済的に困窮した学生へ給付しています。加えて2012年の創設60周年記念事業で頂いた多額のご寄附も10年間、奨学金として給付しています。次に、学部行事である風力発電コンペ、キャンパスガイド表紙コンテスト、留学生研修旅行、桜泉祭、母校を訪ねる会などへの補助、入学生や優秀卒業生への記念品贈呈、鳥人間コンテストや運動部・文化サークルなどへの活動費補助、等々です。

この他に、校友の皆さんからは「生産実習」の受け入れ、学生への特別講演や就職活動に対するご支援、等々、多方面でご協力いただいております。

このような学生へのご支援も高野和雄会長ならびに石井進相談役をはじめとした校友会役員そして校友の皆様のご理解があつての賜ですので、改めて

感謝申し上げます。

次に学部の教育・研究活動の近況について報告いたします。

まず教育活動では3年目となるクォータ制が順調に進行しています。そして本学部の特徴科目である「生産実習」は本年度から内容をより充実させています。それは事前学習としての業種・業界研究、社会人マナー研修などの時間を増やし、実習先へのエントリー、実習の実施とその内容管理、終了後の報告書作成と成果発表といった一連活動をWebシステムで管理できるようになりました。また海外での実習を推奨しており、インド、ベトナム、台湾、パラグアイなどで実施しています。

次には、学科横断型プログラムの充実です。これまでのGlo-BE、Entre-to-Be、Robo-BE、に加えて本年度から「好奇心からイノベーションへつなげるものづくり人材育成プログラム(STEAM-TO-BE; スティームトゥービー)」を開始しました。ホームページに詳細を載せていますのでご覧いただければ幸いです。また、日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定プログラムは、電気電子工学科、土木工学科、応用分子化学科そして数理情報工学科の4学科に設置されていますが新たに建築工学科が大学院修士課程を含めたカリキュラムを運用しています。

一方、国際交流推進の一環として、本年度はタイ王国ランシット大学工学部、パラグアイ共和国アソンシオン国立大学工学部の2校と研究や学生交流に関する覚書を結んでいます。そして産学連携活動を推進するために、一般社団法人白井工業団地協議会と白井市、生産工学部の3者間で交流協定を結んでいます。

生産工学部では創設以来、特徴を持った教育・研究を通して経営がわかる技術者を育成しており、企業後継者が多く卒業し、その子弟も卒業しています。伝統と特徴を生かした「生産工学部らしさの創造と実践」を更に推進し「生産工学部」を社会に発信して行きます。

今後も生産工学部発展のために校友会、卒業生の皆様のご理解とご支援、ご協力を賜りたく、心よりお願い申し上げます。



令和元年10月4日(金)日本大学は、創立130周年を迎えました。

130年の輝きと共に、未来を創る

自主創造の精神の下、16学部の総合大学として多様な学びを創出する日本大学。

その源流は、1889(明治22)年に学祖・山田顕義と11人の若手学者が創立した「日本法律学校」にあります。

欧米の法律を学ぶことが主流だった時代

に日本の法律を軸にした実学を追求し、私学としての独自性を発揮。

国の名を掲げ、高い志で拡大発展してきた学びの場からは、130年間で118万人以上が羽ばたきました。

そして現在、およそ7万8千人が学びを深め、自ら道をひらこうとしています。

法を創り日本を創った吉田松陰の門下生



立志は特異を尚ぶ
俗流ともに議し難し
身後の業を思はず
且く目前の安を愉む
百年は一瞬のみ
君子素餐する勿れ
与山田生
回子(松陰)



1844(弘化元)年、長州藩士の長男として現在の山口県萩市で生を受けた顕義は、14歳で松下村塾に入門し、門下生として約1年間吉田松陰の教えを受けました。

当時の松下村塾には高杉晋作や伊藤博文といった幕末維新を彩る志士たちも学んでいました。彼らとの親交を通して、顕義は新日本の設立者となる素地を養ったのです。

松陰は「与山田生」と題した漢詩を扇面に記し、立志の目標として顕義に授けます。松陰が示した「立志は特異を尚ぶ」という、独自性、自主性こそが、日本大学の教育理念「自主創造」の原点といえます。

後に戊辰戦争で軍事指揮官として活躍した顕義は、文武に秀で、日本の精神と伝統文化を大切にしました。一方で、欧米諸国を視察し、西洋の先進技術・文化を取り入れて近代国家の建設に尽力するという和魂洋才を体現した人物でした。

大塚吉兵衛 日本大学学長

日本大学は、創立130周年を迎えた今、「日本大学マインド」を備えた自ら考え、自ら学び、自ら道をひらく「自主創造型パーソン(日大人)」の養成を掲げております。この目的に向かって、多様な教学施策と自由闊達な学びの場の拡充を全学的な取り組みとして進め、一人ひとりが「積極的に社会と関わる活力」を高めることを目指してまいりました。

日本大学は、今後も教育基盤の整備と共



に学術資源の社会還元により一層注力してまいります。創立130周年という節目にあたり、

これまでのご支援とご指導に心から感謝申し上げます。



令和元年10月4日(金)、帝国ホテルに於いて、日本大学創立130周年記念式典が挙行されました。

式典は創立130周年記念企画等検討委員会委員長である石井進日本大学常務理事(生産工学部校友会相談役、千葉県支部長)による開式の辞で始まりまし。田中英壽理事長の式辞の後、麻生太郎第92代内閣総理大臣(現：副総理 財務大臣 金融担当大臣)

を始め、多くの方々に祝辞を頂きました。

記念式典の後は、会場を移し、津軽三味線の厳かなオープニングで祝賀会が始まりました。小田司日本大学副学長による開会の辞の後に、大塚吉兵衛日本大学学長による挨拶がありました。その後、来賓による祝辞、校友紹介などがあり、鏡開き、乾杯と華やかな祝賀会となりました。

南房総市台風災害でのボランティア活動

令和元年9月22日(日) 千葉県南房総市

千葉県を直撃した台風15号は県内、特に南房総市付近に甚大な被害を与えました。この被害に対して、何かお手伝いできることはないかと日本大学生産工学部校友会の勇志が9月20日(金)に現地調査に行き、22日(日)から支援活動が始まりました。同日の活動には本学部学生2名(勇志)も同行し、土

嚢作りやがれきの選別および運搬などのお手伝いをしました。

現地では集めたがれきなどを市の指定された集積所まで運ぶための重機が不足しているようで、重機を用いた支援については校友会と南房総市の方々と打ち合わせを行いながら進めることになりました。





令和元年9月22日(日) 千葉県南房総市
9月20日(金)の現地視察、22日(日)の支援活動に続き、9月24日(火)、25日(水)も日本大学生産工学部校友会の勇志が現地に行き、支援活動をしました。

現地では物資の供給などはある程度落ち着いてきたようですが、壊れた屋根を補修できる専門家や集めたがれきなどを市の指定された集積所まで運ぶための重機と、それを動かすことのできる専門家が不足しているようです。

日本大学生産工学部校友会には重機を調達できるOB、重機を操縦できるOBがおりますので、重機を用いた支援活動を積極的に行いました。その支援の様子が、9月25日(水)のNHKニュースで取り上げられました。

令和元年10月10日(木) 千葉県南房総市
9月20日(金)の現地視察から始めた南房総市でのボランティア活動を10月10日(木)で一区切りすることにしました。ほぼ3週間の支援活動でした。はじめは学部学生も一緒に土嚢(どのお)作りやがれきの選別などを行いましたが、その後は電気電子部会の勇志が重機を持ち込み、定期的に集められたがれきを集積所に運搬するなどの活動をしました。これらの活動により、市内で小さくまとめられたがれきは撤去され、以前の姿を見る



ことが出来るようになりました。
初めてのボランティア活動でしたが、被災地では何を本当に必要としているのか、何が私たちにできるのかを知る良い機会となりました。

私達の校友会には、企画委員会、ボランティア委員会があります。これからは、この2つの委員会を中心に、災害時に校友会として在校生や地域に対して何ができるのかを考えていきたいと思っています。

令和元年度 生産工学部校友会 代議員総会

生産工学部校友会の代議員総会が6月15日(土)市川グランドホテルで行われました。総会は約200名の校友会代議員が出席して行われました。議長に河原和人電気電子部会会長、書記に梅谷純生土木部会会長が選出され、平成30年度事業報告、平成30年度経常収支、平成30年度監査報告、令和元年度事業計画(案)、令和元年度経常収支(案)の報告と議案が渡邊昭廣財務委員長と大澤慶吉監査委員長より説明があり、承認されました。



代議員総会

平成 30 年度 經常収支決算書

自平成30年4月1日 至平成31年3月31日

1. 収支計算の部

(▽:減算/単位:円)

収入科目	勘定科目	平成30年度予算額	平成30年度決算額	差額	備考
学費	学費	5,000	558	4,442	
費減	費減	5,000	858	(4,142)	
人	人	(40,000,000)	(39,096,000)	904,000	学生数 11,000 × 800
会	会	40,000	39,096	904	学生会員会費
費	費	(400,000)	(420,000)	20,000	
金	金	800,000	820,000	△ 20,000	
受	受	(1,151,000)	(1,804,862)	△ 653,862	定金貸付返金
利	利	10,000	802	9,198	貸付金利息
収	収	1,200,000	1,804,000	△ 604,000	貸付金、貸付金
入	入	(42,119,000)	(41,531,860)	587,140	
新	新	(9,816,640)	(9,816,640)	0	
収	収	9,816,640	9,816,640	0	
入	入	125,731,440	125,148,100	583,340	
支	支	(4,000,000)	(4,066,420)	△ 66,420	
代	代	2,500,000	3,287,197	△ 787,197	代議員会費
役	役	600,000	464,609	135,391	135,391 理事、運営協議会
員	員	1,000,000	214,633	685,367	各種委員費
交	交	(2,500,000)	(4,382,629)	△ 1,882,629	
通	通	2,500,000	3,000,000	500,000	料、賃金、アルバイト
交	交	800,000	418,282	381,608	事務局、4等
通	通	200,000	268,173	31,827	電話代、会議通費
印	印	200,000	34,022	115,978	入会案内、年会費
品	品	100,000	56,395	43,605	文房具類
会	会	250,000	325,760	75,760	リース料
委	委	400,000	400,000	0	経理事務
名	名	(16,100,000)	(14,626,274)	1,473,726	新着システム構築費
名	名	1,000,000	188,239	811,841	新着システム構築費
会	会	2,600,000	2,624,640	△ 24,640	新着システム構築費
部	部	200,000	116,648	83,352	新着システム構築費
会	会	800,000	394,432	405,568	新着システム構築費
学	学	1,500,000	1,407,005	92,995	新着システム構築費
生	生	1,500,000	3,900,000	0	新着システム構築費
学	学	1,500,000	3,948,684	2,448,684	新着システム構築費
生	生	2,000,000	1,978,276	21,724	新着システム構築費
特	特	(4,000,000)	(3,934,975)	65,025	新着システム構築費
外	外	2,500,000	2,644,482	△ 144,482	新着システム構築費
外	外	1,000,000	650,648	349,352	新着システム構築費
費	費	2,000,000	218,830	1,781,170	新着システム構築費
費	費	400,000	429,995	29,995	新着システム構築費
基	基	(1,000,000)	(1,000,000)	0	新着システム構築費
金	金	(1,000,000)	(1,000,000)	0	新着システム構築費
支	支	(1,000,000)	(800,000)	200,000	新着システム構築費
支	支	1,000,000	800,000	200,000	新着システム構築費
支	支	(22,200,000)	(29,900,708)	△ 7,700,708	新着システム構築費
文	文	(9,816,640)	(96,247,392)	△ 86,430,752	新着システム構築費
収	収	9,816,640	96,247,392	△ 86,430,752	新着システム構築費
入	入	125,731,440	125,148,100	583,340	新着システム構築費

平成 30 年度事業報告

会員の状況（令和元年3月31日現在）正会員 85,243名 学生会員 6,513名

● 事業 関

年月日	内 容
平成30年4月8日	平成30年度入学生に記念品を贈呈
平成30年4月19日	会計監査
平成30年6月16日	平成30年度代議員総会開催
平成30年6月18日	鳥人間コンテスト出場への助成金を贈る
平成30年9月1日	工科系4学部校友連絡会
平成30年9月21日	新2学年祝賀会へお祝い金を贈る
平成30年10月9日	鳥人間コンテスト優勝校を贈る
平成30年10月17日	11回風力発電コンペ WINCOM 2018 への助成
平成30年10月17日	キャンパスガイド表紙デザインコンペへの助成
平成30年10月17日	留学生研修旅行への助成
平成30年11月2日	桜泉祭実行委員会への助成
平成30年11月3日	「母校を訪ねる会」へ協賛
平成30年11月9日	生産工・工学部 生産実習・就職企業懇話会へ協賛
平成30年12月10日	「桜生工」2018 Vol.48 発行
平成31年2月28日	新代議員説明会開催
平成31年3月25日	平成30年度卒業生（18名）に校友会費を贈呈
平成31年3月26日	キャンパスカレンダー（生協発行）全学生、教職員に配布

● ☆ 講 聞 傳

年/月/日	会 議 名	内 容
平成30年4月19日	財務・監査・事務局委員会	29年度決算報告・30年度予算案のまとめ
5月17日	運営協議会	29年度決算報告・30年度予算案、総会について
5月31日	幹事会	29年度決算報告・30年度予算案、総会について
6月16日	役員協議会	29年度決算報告・事業報告・30年度予算・事業案
6月26日	総会	総会事務局の役員選出について
9月20日	9月20日	母校を招くる会について
9月29日	事務局	新設部会対応について
10月10日	財務・監査・事務局委員会	11下期の決算報告のまとめ
10月18日	幹事会	母校を招くる会・鳥人間コンテスト配属会について
11月15日	運営協議会	母校を招くる会・鳥人間コンテスト配属会の報告
平成31年1月24日	創立60周年会	祝大会役員による新年会
2月21日	役員協議会	役員協議会報告・引き継ぎについて
2月28日	新役員説明会	祝大会の事後と活動内容の説明
3月28日	財務・監査委員会	30年度決算報告について
3月31日	運営協議会	部会決算報告について

● 刻 外 問

年月日	内 容	出席者
平成25年 4/23/24	日本大学体育学部学生会委員会	高野
4/26/27	日本大学校友会第1回周年記念式典	高野
4/30/31	日本大学学部入学式	高野
4/31/11/12	日本大学学部入学式	高野
4/31/19/20	財団法人協賛、監事合同総会	高野、熊
4/22/13/23	生産工学部工業部校友会総会	高野
4/28/14/24	生産工学部工業部校友会総会	高野
4/29/15/25	生産工学部工業部校友会総会	高野
5/1/16/26	日本大学校友会第2回周年記念式典	高野
5/11/17/27	日本大学法学部校友会総会	高野
5/12/18/28	日本大学経済学部校友会総会	高野
5/13/19/29	日本大学校友会評議委員会	高野
5/22/27/28	日本大学評議委員会	高野
5/23/28/29	日本大学経済学部校友会総会	高野
5/28/33/29	日本大学通則学部校友会総会	高野
5/29/34/30	日本大学校友会東京都第4次総会	上田
5/29/35/31	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/1/31/32	日本大学校友会第3回周年記念式典	高野
6/1/32/33	日本大学学部入学式	高野
6/1/33/34	日本大学校友会東京都第5次総会	高野
6/1/34/35	日本大学工学部校友会総会	熊
6/1/35/36	日本大学工学部校友会総会	高野
6/1/36/37	日本大学工学部校友会総会	高野
6/1/37/38	日本大学工学部校友会総会	高野
6/1/38/39	生産工学部校友会総会	高野
6/1/39/40	生産工学部校友会総会	高野
6/2/40/41	日本大学理工学部校友会総会	高野
6/2/41/42	日本大学文学部校友会総会	高野
6/2/42/43	日本大学文学部校友会総会	高野
6/2/43/44	日本大学校友会東京都第7次総会	高野
6/2/44/45	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/45/46	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/46/47	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/47/48	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/48/49	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/49/50	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/50/51	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/51/52	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/52/53	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/53/54	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/54/55	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/55/56	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/56/57	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/57/58	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/58/59	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/59/60	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/60/61	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/61/62	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/62/63	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/63/64	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/64/65	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/65/66	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/66/67	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/67/68	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/68/69	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/69/70	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/70/71	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/71/72	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/72/73	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/73/74	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/74/75	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/75/76	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/76/77	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/77/78	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/78/79	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/79/80	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/80/81	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/81/82	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/82/83	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/83/84	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/84/85	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/85/86	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/86/87	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/87/88	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/88/89	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/89/90	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/90/91	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/91/92	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/92/93	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/93/94	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/94/95	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/95/96	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/96/97	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/97/98	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/98/99	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/99/00	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/00/01	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/01/02	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/02/03	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/03/04	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/04/05	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/05/06	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/06/07	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/07/08	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/08/09	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/09/10	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/10/11	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/11/12	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/12/13	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/13/14	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/14/15	日本大学経済学部校友会総会	高野
6/2/15	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/16	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/17	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/18	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/19	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/20	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/21	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/22	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/23	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/24	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/25	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/26	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/27	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/28	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/29	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/30	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/31	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/32	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/33	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/34	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/35	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/36	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/37	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/38	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/39	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/40	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/41	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/42	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/43	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/44	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/45	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/46	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/47	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/48	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/49	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/50	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/51	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/52	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/53	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/54	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/55	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/56	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/57	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/58	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/59	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/60	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/61	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/62	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/63	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/64	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/65	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/66	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/67	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/68	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/69	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/70	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/71	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/72	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/73	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/74	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/75	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/76	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/77	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/78	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/79	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/80	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/81	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/82	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/83	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/84	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/85	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/86	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/87	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/88	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/89	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/90	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/91	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/92	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/93	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/94	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/95	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/96	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/97	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/98	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/99	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/00	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/01	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/02	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/03	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/04	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/05	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/06	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/07	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/08	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/09	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/10	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/11	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/12	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/13	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/14	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/15	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/16	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/17	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/18	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/19	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/20	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/21	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/22	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/23	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/24	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/25	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/26	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/27	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/28	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/29	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/30	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/31	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/32	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/33	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/34	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/35	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/36	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/37	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/38	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/39	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/40	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/41	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/42	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/43	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/44	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/45	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/46	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/47	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/48	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/49	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/50	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/51	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/52	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/53	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/54	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/55	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/56	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/57	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/58	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/59	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/60	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/61	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/62	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/63	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/64	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/65	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/66	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/67	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/68	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/69	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/70	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/71	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/72	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/73	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/74	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/75	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/76	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/77	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/78	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/79	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/80	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/81	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/82	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/83	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/84	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/85	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/86	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/87	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/88	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/89	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/90	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/91	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/92	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/93	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/94	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/95	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/96	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/97	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/98	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/99	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/00	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/01	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/02	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/03	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/04	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/05	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/06	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/07	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/08	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/09	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/10	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/11	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/12	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/13	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/14	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/15	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/16	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/17	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/18	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/19	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/20	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/21	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/22	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/23	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/24	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/25	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/26	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/27	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/28	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/29	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/30	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/31	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/32	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/33	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/34	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/35	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/36	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/37	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/38	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/39	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/40	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/41	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/42	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/43	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/44	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/45	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/46	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/47	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/48	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/49	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/50	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/51	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/52	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/53	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/54	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/55	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/56	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/57	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/58	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/59	熊 弘 樹	熊 弘 樹
6/2/60	熊 弘 樹</	

令和元年度 生産工学部校友会代議員総会 懇親会



ご挨拶される高野和雄生産校友会会長



ご挨拶される大塚吉兵衛日本大学学長



ご挨拶される落合実生産工学部長



ご挨拶される石井進日本大学常務理事

令和元年度 生産工学部代議員総会懇親会は佐野洋之応用分子化学部会長による開会の辞、そして校歌斉唱の後、高野和雄生産工学部校友会会長が今年10月4日、日本大学創立130周年記念祝賀会が帝国ホテルで開催されること、また、生産工学部校友会が生産工学部70周年に向けて寄付金の積み立てをしている旨の話をされました。(現在までに生産工学部校友会からの寄付金は生産工学部奨学金基金1億2,000万円と本部校友会日本大学創立130周年記念事業1,000万円とを合わせて合計金額1億3,000万円になりました。)

次に、落合実生産工学部長からは生産工学部の現況報告とこれからの事業、今年度卒業生の就職率と生産実習などのお話をいただきました。

ご来賓の大塚吉兵衛日本大学学長より、生産工学部校友会は、とても若い人達が大勢出席されており、活気に満ちあふれている

とお褒めのお言葉をいただきました。

石井進日本大学常務理事(日本大学校友会千葉県支部長)の乾杯で懇親会が始まり、お集まりいただいたご来賓と校友約200人が和やかに祝宴を楽しみました。(今年も8名の留学生をご招待しました)



ご招待した留学生



第12回 風力発電コンペ WINCOM2019

令和元年11月3日(日)、津田沼校舎37号館8階にて第12回風力発電コンペWINCOM2019が開催されました。

今大会も38チームと数多くのご参加をいただき、発電量部門・エネルギー利用部門ともに大盛況のうちに無事終えることができました。日本大学生産工学部校友会賞には、日本大学生産工学部機械工学科チームの「BOREAS(ボレアス)」

日本風力エネルギー学会 長井浩記念賞には、蕨市立第一中学校チームの「orz(オーアールゼット)」最優秀賞には足利大学附属高等学校チームの「Brand New Wind 2019」が選ばれました。

来年度も、さらに盛大な大会となるようスタッフ一同一丸となって取り組む所存ですので、今後ともご支援の程宜しくお願いいたします。



全体集合風景



校友会賞受賞チームの風車

2020年度キャンパスガイド表紙デザインコンペ

令和元年11月3日(日)津田沼校舎39号館1階ギャラリーでキャンパスガイド表紙デザインコンペ作品審査を行いました。



最優秀賞作品デザイン

最優秀賞

明るいキャンパスライフ	関 拓哉	創生デザイン学科3年
	小林 恒平	創生デザイン学科3年

優秀賞

自由の桜	原 清嵐	創生デザイン学科3年
夢の先まで、駆け抜けろ	新田 奈々美	創生デザイン学科2年

佳作

日大生が築く日本の未来	佐藤 杏恵	建築工学科4年
創る。	岩崎 琢朗	建築工学科3年
未来の技術者になる君へ	堀内 那央	建築工学科4年
連なる「学び」	山田 航士	建築工学科3年
十人十色	吉澤 伊織	創生デザイン学科3年

校友会賞

桜泉	小山 佳織	建築工学専攻1年
Le Ballon	川邊 碧	創生デザイン学科3年
"Travelers Guide ～進路を決める地図～"	伊藤 拓海	建築工学科4年
強く広がる10色	荒川内 大心	建築工学専攻1年
形のあるアイデア	槌田 美鈴	建築工学科4年
Creative Magic	岡戸 竜輝	創生デザイン学科2年
未来を導くプリズム	高橋 祐太	建築工学科4年
10色のブロッケン現象	松岡 亮輔	建築工学科4年
CITが創る2020	中里 翔太	建築工学科4年
日本大学の歴史、 TOKYO2020	高野 真実	建築工学専攻2年
えんてん	白石 せら	建築工学科4年
結合し合うCIT	古田 宏大	建築工学科4年
交わる色	市原 実果	建築工学科4年
樹木	鈴木 紀乃	創生デザイン学科2年
開きたくなるキャンパスガイド	川崎 健太郎	創生デザイン学科2年



工科系校友会連絡会

第37回日本大学工科系校友会連絡会が令和元年8月31日(土)日本大学工学部(郡山)で開催されました。4学部校友会幹事約40名が参加。最初に主催校である中野伍朗工学部校友会会長のご挨拶で始まり、高野和雄生産工学部校友会会長、内倉和雄薬学部校友会会長、木田哲量理工学部校友会会長のご挨拶がありました。

話題としては、各学部校友会の事業報告が中心でした。

懇親会のご来賓として石井進日本大学常務理事、出村克宣工学部長、落合実生産工学部長、本橋重康薬学部長、小林昭男理工学部短大学部次長にご出席いただきました。当番校である中野

伍朗工学部校友会会長の開会の辞ではじまり、会は和やかな祝宴になりました。

最後に次回当番校である高野和雄生産工学部校友会会長の閉会の辞でお開きとなりました。



第31回 母校を訪ねる会・桜泉祭

生産工学部では毎年桜泉祭(旧泉祭)の時期(今年度は11月3日～11月4日)に「母校を訪ねる会」を開催し、皆様をご招待申し上げております。

今年度は卒業50年(昭和44年卒業)、卒業40年(昭和54年卒業)、卒業30年(平成1年卒業)、卒業20年(平成11年卒業)及び卒業10年(平成21年卒業)を経た皆様を対象に下記により第31回「母校を訪ねる会」を開催致しました。懇親会は39号館2階食堂で行われ、上田浩司マネジメント部会長の開会の辞で始まり、落合実生産工学部長、高野和雄生産工学部校友会会長、石井進日本大学常務理事・生産校友会相談役に、ご挨拶

を頂きました。見城忠昭事務局長の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。OB・OGの方々のご家族が在学当時の先生方をはじめ教職員との懇談やお互いの旧交を深めました。



桜泉祭



母校を訪ねる会

坂本 光弘 機械工学科部会長

校友の皆様方におかれましては、各分野において増々ご活躍のこととお慶び申し上げます。本年度から前任の松田俊二部会長より 後任として就任致しました。昭和54年坂井研究室卒業の坂本光弘です。

前任の松田先輩は6期17年の間機会部会長として貢献されました。感謝の意に堪えません。機械工学科の先生、先輩方々が作り上げてきた伝統、校風を引き継ぎ、新たな時代に合った機械部会を構築する使命に身が引き締まる思いです。さて 現在 私は昭和60年設立のプラスチック特殊加工(JR 等のSUICA の表示パネル製造等)三光工業株式会社で代表をしております。卒業より40年以上の長期にわたり堅実経営を持続できたのは、学生時代の先生方々、先輩方々の御指導のお蔭であると固く信じています。

今期 日本大学は130周年記念を盛大に執り行い、明るい未来に歩みを進めています。私も自助努力を最大限発揮して 母校の校友会活動、学生支援等に貢献して行く所存です。皆様方の厚いご理解、ご協力をお願いして就任のご挨拶と代えさせていただきます。



坂本 光弘さん(右)



機械工学科・校友会機械部会 交流会

朝本 紘充 応用分子化学科卒業【在校生の皆さんへ ～内向き志向からの脱却のススメ～】

○ 学部での思い出 ～初めての海外一人旅～

大学4年次の2003年8月、私は初めて単身でアメリカに入国しました。およそ3週間に渡る一人旅のなかで西海岸の街を渡り歩き、様々な国の人間との交流を果たしました(写真下)。

○ 大学院での研究活動

～異なる学問分野での研究活動～

大学院ではタンパク質に関する研究に取り組みました。博士後期課程では薬学研究科に進学し、内倉和雄 教授(現 薬学部校友会会長)並びに武蔵野大学 今井一洋 教授(東京大学名誉教授)に師事し、博士(薬学)の学位を取得しました。異なる学問分野で研究に従事したことは、多面思考力



著者の当時の様子(左)と近影(右)

を養う絶好の機会となりました。

○ 大学教員としての現在

平成21年度より本学部の教養・基礎科学系に着任しました。現在もタンパク質の研究を続けており、今年度はその成果が認められ日本大学の学部連携ポスターセッションにおい



日本大学・学部連携ポスターセッションでの賞状(2019年)

て優秀ポスター賞を受賞しました(写真右)。

○ 在校生の皆さんへのメッセージ

若い時代、居心地の良い特定の領域のみで活動していると新たな発見や気づきが得られません。一歩外に踏み出す勇気が、自己の成長を促す大きなきっかけとなります。

日本大学 准教授 朝本 紘充 (生産工学部 教養・基礎科学系)
2009年3月 日本大学大学院 薬学研究科 博士後期課程 薬学専攻 修了
2006年3月 日本大学大学院 生産工学科 博士前期課程 工業化学専攻 修了
2004年3月 日本大学 生産工学部 工業化学科 卒業



機械工学科

【学生数】学部生 777 名、大学院生(前期)55 名、(後期)10 名

【人事】今年度より研究所教授として富井規雄先生が、助教として松本幸太郎先生がご着任されました。また、4月に坂田憲泰専任講師が准教授に、柳澤一機助教が専任講師にご昇格されました。一方、3月に特任教授の高橋清造先生がご退職されました。

【トピックス】野村教授の多大な尽力の下、パイロットを目指す学生のために米国でのパイロットライセンス取得プログラムを8年にわたり実施し、これまでに26名のライセンス所得者を輩出してきました。そして、今春、SKYCAMP1&2と呼ばれる2段階のプログラムを経たライセンス取得者5名がエアラインのパイロット訓練生として就職することができました。現在、彼らは地上勤務の研修を受け、パイロットとして大空を飛ぶことを目指して頑張っています。彼らの卒業時に行ったインタビューや座談会の様子を動画として機械工学科ホームページにて配信していますので、是非ご覧ください。その他、機械工学科のホームページ(<http://www.me.cit.nihon-u.ac.jp/>)では、様々なニュースを紹介しています。



富井規雄教授(研究所)



松本幸太郎助教

電気電子工学科

【学生数】学部生 654 名 大学院生(前期)35 名 大学院(後期)0 名

【人事】今年度は中西哲也教授が学科主任、原一之教授が専攻主任として学科・専攻運営に携わっております。また、加藤修平先生と矢澤翔大先生が助教に昇格されました。

【トピックス】毎年、1年生は大学生活をスムーズに始められるよう、学生同士や教員との親睦を深めるべく、一泊二日の学外オリエンテーションを開催しております。今年度は4月2日(火)、3日(水)の日程で千葉県鴨川市内の鴨川グランドホテルにてコース分け面談及びミーティング等を行いました。2日間のオリエンテーションを通じて新入生との親睦を深めるのに有効なオリエンテーションとなりました。



鴨川グランドホテルにて



加藤修平助教



矢澤翔大助教

土木工学科

【学生数】学部生 800 名、大学院生(前期)21 名、大学院生(後期)9 名

【人事】令和元年度は、新任教員として野口博之 助手が土木工学科に着任しました。これにより、土木工学科の教員構成は教授10名、准教授6名、専任講師1名、助教2名、助手1名となりました。なお、昨年度、阿部忠 教授が退任されました。永年のご功労に、衷心より感謝の意を表します。

【トピックス】4月3日～4日の1泊2日で、1年生のオリエンテーション旅行として千葉県鴨川市へ行ってきました。2日目には、マザー牧場にて学生は飯盒炊爨を通して、新1年生は新しい仲間との親睦を深

めました。

9月9日～10日の1泊2日で、「生産実習・同(S)」に関わる現場研修旅行に行っていました。9月9日は令和元年台風15号が千葉県に上陸し、県内は甚大な被害が発生しました。前日は、現場研修旅行を中止することも検討しましたが、出発時間をずらすことで162名の学生が大学へ集合することができましたので、国土交通省から現場見学の許可が下りたハッ場ダムと片蓋川砂防堰堤の建設現場を見学するため、群馬県へ向かいました。2日目は天候にも恵まれ、安全に現場見学を終えることが出来ました。また、今年度も「海外生産実習」として、土木工学科3年生の4名が、ベトナム(2名)とパラグアイ(2名)にて実習を行いました。8月12日には、パラグアイのアスンシオン国立大学工学部と日本大学生産工学部との共同研究の推進と学生の交流(交換留学生)を図ることを目的に、覚書(MOU)が締結されました。調印式に際し、小田晃教授が「パラグアイ川の河川管理と流域の開発に関する総合的研究」と題して特別講演を行いました。調印式の詳細については、生産工学部のHP(<http://www.cit.nihon-u.ac.jp/news/30349.html>)でご確認ください。



片蓋川砂防堰堤の現場見学(生産実習)



ハッ場ダムの現場見学(生産実習)

建築工学科

【学生数】学部生839名 大学院生(前期)15名 (後期)2名

【人事】師橋憲貴教授が学科主任に選出され、専攻主任に北野幸樹教授が任命されました。また、水野僚子助手が助教に昇格されました。

【トピックス】○建築工学科の学士課程プログラムは、2018年度JABEE(日本技術者教育認定機構)予備審査を受審し、2019年3月8日付けで日本技術者教育認定基準に適合していると暫定認定を受けました。○2019年度支部共通事業 日本建築学会設計競技「ダンチを再考する」において、岩田研究室の高橋朋君(4年)、鈴木俊策君(4年)、増野亜美さん(4年)、渡邊健太郎君(M1)のチームによる『ソラニワ団地 ～住む下町、集う上町～』が、9月3日に建築学会北陸大会(於：金沢工業大学)で行われた全国2次審査(公開)で優秀賞を受賞しました。このほか、同研究室からは2グループが関東支部入選および北陸支部入選を果たしました。○三上功生准教授は2019年7月30日、NHK Eテレ ハートネットTV「HEART - NET TIMES 7月」に出演し、「この時期気をつけたい熱中症！ 障害による傾向と対策を千葉リポーターが体当たり報告」のコーナーの中で、環境人間工学の立場から、車いすユーザーの熱中症の危険性や、温熱環境のバリアフリーの必要性などについて解説しました。



日本建築学会設計競技
優秀賞を受賞した作品



番組リポーターを迎え入れる
三上准教授



応用分子化学科

【学生数】学部生694名 大学院生(修士)33名 大学院(博士)2名

【人事】令和元年度は山田和典教授が学科主任として、また津野孝教授が専攻主任として学科・専攻の運営に携わっています。令和元年度の教員構成は教授9名、研究所教授1名、准教授5名、専任講師4名です。なお、学科に関する最新の情報はホームページ(<http://www.ic.cit.nihon-u.ac.jp>)をご覧ください。

【トピックス】○5月に日秋教授が分離技術会から分離技術会業績賞を、また原口研究所教授が高分子学会から高分子科学功績賞を受賞しました。○2019年8月に津野教授の論文がChiralityのCover Imageとして採用されました。○9月に中釜教授が日本工学教育協会から第23回(2018年度)工学教育賞を受賞しました。○3月に日本海水学会若手会第10回学生研究発表会で博士前期課程1年生の木村太一君が奨励賞を、学部4年生の大津涼君が優秀賞を受賞しました。○3月に博士前期課程1年生の草刈真一君が第36回高分子学会千葉地域活動若手セミナーで優秀発表賞を受賞しました。○8月に博士前期課程2年生の川神結菜さんが第33回日本キッチン・キトサン学会で優秀ポスター賞を受賞しました。○4月20日から1泊2日の日程で学外オリエンテーションを行い、醤油工場見学やグループワークでの企画に取り組みで新入生同士や教員との親睦を深めました。○6月から市川准教授が中期海外派遣研究員として米国のコロラド州立大学でヘテロ環化合物の合成に関する研究を行っています。○8月8日に千葉県総合教育センター主催の科学技術研修(化学コース)を実施し、高橋大輔専任講師と山根庸平専任講師が千葉県内の公立小・中・高等学校で理科を担当されている教員の研修に協力しました。



高分子学会会長と受賞した
原口研究所教授

マネジメント工学科

【学生数】学部生734名 大学院生(前期)25名 (後期)6名

【トピックス】5月18日に実習キャンパスで行われた生産工学部スポーツ大会、9学科対抗で競い合った結果見事！10年ぶりに優勝することができました。特に綱引きでは声を合わせ、力強く綱を引いている姿にはとても感動しました。新入生の皆さん！この調子で様々なことにチャレンジして、充実した学生生活を送ってください。

桜泉祭(学園祭)での学科御神輿に対してOBの生産工学部校友会マネジメント部会から御神輿の製作・修理代等のご支援を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。当学科の神輿のコンセプトは“担ぎ方改革”、時代を反映して少人数で担ぐための当学科らしい工夫がなされていました。

研究活動では英国・リバプール大学において開催されました、The 10th International Conference on Systematic Innovation (ICSI)におけるPaper CompetitionのOther new tools, theories, and applications related to systematic innovation or CAI部門において、大原さんが第3位に選ばれました。また、経営情報学会の秋季の全国研究発表大会で、学生優秀発表賞を四海さんと関さんがそれぞれ受賞しました。



マネジメント工学科の御神輿



スポーツ大会

数理情報工学科

【学生数】学部生 636 名、大学院生(前期)37 名 (後期)1 名

【トピックス】〇9月21日に日本大学校門会館にて、生産工学部校友会「数理情報部会懇親会」が学科の協力のもと開催されました。数理情報工学科の前進である統計学科、数理工学科、そして数理情報工学科の卒業生が集まる初めてのOB・OG会で、現役学科教員・OB教員・同窓生あわせて84名が参加しました。三宅修平数理情報部会長、中村喜宏数理情報工学科主任の挨拶に始まり、角田和彦教授の乾杯の発声で懇親会がスタートしました。同窓生は旧友や恩師との再会で、近況報告や懐かしい思い出話に花を咲かせ楽しい時間を過ごしました。途中、各年代が一緒にチームになって答えるクイズイベントが開催され、学部、学科に関する問題に対して世代を超えて談笑しながらも真剣に答えていた場面は、今も昔も学科の真面目さは変わらないと感じさせるひとときでした。今後も継続して懇親会の開催を計画しておりますので、OB・OGの皆様のご参加を心よりお待ちしております。



集合写真

環境安全工学科

【学生数】学部生 508 名

【トピックス】学外におけるイベントに積極的に参加しています。2018年8月に開催された「2018夏休みサイエンススクエア」に坂本・小森谷・吉野研究室の学生7名が参加し化学教室を行いました。10月に開催された「ぼうさいこくたい2018」に岩下・野中研究室の学生3名がリモートセンシングを利用した災害把握の取り組みについてブース展示を行い、12月に開催された「エコプロ2018 SDGs時代の環境と社会、そして未来へ」で環境モニタリング技術のブース展示をするなど、環境安全に関する知識・技術の普及に貢献しています。

2019年3月に7期生124名が卒業し、卒業生の就職希望者全員の就職が決まりました。学科主催の就職支援として業界研究セミナーを実施しており、70社以上の企業様にご協力いただき、社会人の姿勢や心構えも学べる機会となっています。

平成30年3月に今村宰准教授の発表論文が日本機械学会の宇宙工学部門宇宙賞を受賞されました。平成30年11月に秋濱一弘教授が「日本燃焼学会 第56回燃焼シンポジウム」にて基調講演を行うなど教員の研究活動も活発です。

2019年4月には131名の新入生を迎え、秋濱一弘教授が学科主任となり、学生と教員が多面で活躍しています。今後更なる発展を目指しますので、変わらずご支援よろしくお願いします。



エコプロ 2018 に参加した
ブース



業界研究セミナーの様子



創生デザイン学科

【学生数】学部生529名

【トピックス】OAOSUGE 報告会：創生デザイン学科学生有志が中心となって活動している旧佐倉市立志津小学校青菅分校保存・活用委員会が、去る10月26日、当地で地元の方々をお呼びした活動報告会(AOSUGE 報告会)を開催しました。平山建設株式会社様のご協力で学舎(昭和30年代建立)の修繕が完了したことから、今回はそのお披露目会も合わせて行われました。

当日は、修繕報告、活動報告、学舎公開展示の順で実施され、お昼には豚汁がふるまわれました。また、ファブリケーション・トラック(※)搭載のデジタルミシンの実演、体験も行われ、ものづくり・地域づくりへの機運を盛り上げました。地域の皆様からは、当時の分校の様子や、プロジェクトに対する意見、評価をお聞きすることが出来、今後の活動に向け大変有意義なものとなりました。

※創生デザイン学科が導入した移動式デジタル工房で、3Dプリンターなどのデジタルファブリケーションを搭載して公園などの公共空間に派遣し、学生が主体となってもものづくりワークショップ等を企画・運営を行います。

○海外派遣：内田康之教授が令和元年度日本大学海外派遣研究員(短期B)として、令和元年6月中旬～9月上旬、デンマーク王国など3か国に派遣されました。



学舎内での AOSUGE 報告会の様子



デジタルミシンによるものづくり体験

教養・基礎科学系

【人事】2019年3月に福田隆准教授(数学)が定年を迎え、また中條清美教授、内堀朝子教授、濱田彰助教、ミッシェル・ジョンソン助教(言語文化)が新たな道に進むため退職されました。

【トピックス】2021年4月から始まる予定の、次のカリキュラムに向けて、ディプロマポリシーやルーブリックによる明確な科目配置を目指して検討段階にあります。クォーター制を活かしたカリキュラムへの変更と「日本を考える」という新科目の導入に向けて、イノベーションなどの新たな試みも加えるべく日々話し合いを続けております。その一部であるSDGsに関しても、間田潤准教授による公開講座が行われました。一方で、11月の桜泉祭にあわせて実習キャンパスで実施している理科教室(夢化学21)への近隣小学生の参加が著しく減少しており、少子化問題だけが原因だとは思いませんが、今後の教育の現場にとって「より良い教育」を目指し、理科やモノづくりへの興味を早くから持ってもらうことの大切さを実感しております。



公開講座 SDGs



夢化学 21

校友会は、いつまでも卒業生とのつながりを大事にしています!(卒業生100万人と)

日本大学生産工学部校友会誌「桜生工」

発行：日本大学生産工学部校友会

住所：千葉県習志野市泉町1-2-1

TEL：047-476-1140

FAX：047-476-3510

HOMEPAGE：http://www.ne.jp/asahi/nuit/koyukai/

E-MAIL：nuitkoyukai@nippon.email.ne.jp

印刷：株式会社 東工

住所：千葉県松戸市松戸1701

TEL：047-700-5097(代)

FAX：047-700-5098

編集：日本大学生産工学部

校友会広報委員会